西東京市市民協働推進センター
平成２１（2009）年度第５回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２１年１０月２０日（火）　午後7時～9時
■開催会場：イングビル３階　第１会議室
■出席委員：有賀委員、熊田委員、小林委員、坂口委員、中曽根委員、橋本委員、原委員、宮崎委員、山辺委員、吉田委員
＜以上１０名、五十音順＞
■事 務 局：鈴木センター長、丸木地域福祉課長、田中

○市役所職員との懇談を行った。
○委員長より開会のあいさつの後、柳澤委員が転勤のため委員を辞任しなければならない旨報告があった。

１．報 告 事 項

委員長：業務報告をお願いしたい。
事務局：第２回市民活動ネットワークを９月１８日に実施した。
協働推進センターの団体登録は７月から９月までに８団体あった。
相談例では、地域活性化のためのイベントに出てもらう市民活動団体を紹介してほしいとの依頼があった。また、母親同士の情報交換を考えている子育て団体に地域のＦＭ局を紹介した。子育て情報を発信する番組ができればよいという話をしている。
委員長：１１月以降の実施事業について説明してほしい。
事務局：コミュニティビジネス講座のチラシを配布している。１８日から講座を開始するが、現在２０名ほどの参加申し込みがある。初回講座終了後に次回以降の参加希望者がいた。単発参加もできるように企画したのがよかったと思われる。
１１月２６日に「大学生と意見交換をしませんか」というテーマで委員長の協力の下、武蔵野大学学生たちと市民活動について話し合うトークサロンを予定している。
１１月１４～１５日に開催される市民まつりに協働推進センターも参加する。協働推進センターのＰＲと、団体登録についての案内や地域活動情報ステーションのことを伝えたいと思っている。またセンターに団体登録している団体やネットワークに参加している方々にメールを送り、パンフレットやチラシがあったら配布させていただく旨を伝えた。いろいろな市民活動団体のことを知ってもらう機会として市民まつりを活用したい。
協働推進センターのスタッフブログはＣＡＮＰＡＮブログを用いてスタートした。
「ひまわりプロジェクト」は１０月１５日にヒマワリの収穫を行い、現在、種を乾かしている。１１月５日に搾油を行い、１２月にはその油を使って調理をする。このプロジェクトについては、協働推進センターは中間支援に徹した方がよいのではないかという提案を市に行っているが、まだはっきりとした方向づけには至っていない。
市民活動ネットワークについては前回の運営委員会で、委員からＮＰＯの参加をもう少し促すという意味で、ＮＰＯという名称を入れたほうが良いのではないかという意見が出され、第２回市民活動ネットワークの時にその旨を提案した。その場で了承されたので、次回からはこの名称で開催したいと思っている。第３回のＮＰＯ・市民活動ネットワークは１１月２０日に開催を予定している。参加団体より発表してもらうとともに、各団体の抱えている課題などを５～６人ずつのグループに分かれて話し合い、発表してもらう。前回も名刺交換のときが一番いきいきとして活発に意見交換をされていたように感じる。皆さん人と出会い、パーソナルな関係で話をしたいのではないか。
アスタでの市民シンポジウムでは各団体にパネル展示にご協力して頂いた。そのパネルを市役所もしくは大型スーパーなどで展示したいと思っていたが、パネルが早めに持ち帰られたことや、市役所に展示する際には人を配置しなくてはならなかったため、今回はとりやめた。
委員長：トークサロンの進行状況はどうか。アルバイトや学内での取り組みなどがあり総じて忙しいため、粘り強くアタックして欲しい。コアリーダー的な学生に「協働推進センターに行くと楽しそうだ」という印象を持ってもらえるかがポイントになるだろう。

２．審　議　事　項

○第４回運営委員会会議録（未定稿）に訂正部分は無く、未定稿を確定稿とした。

３．協　議　事　項

委員長：来年度の市民協働推進センターの予算および事業について説明していただきたい。

事務局：市民ファンド立ち上げの件は、急いで来年から始めず、来年はしっかり調査・リサーチしていきたいと考えている。
ホームページの部分については市との調整がまだできていないが、予算に計上し、認めてもらえたら実施したい。
「情報ボックス」はどの程度の場所・範囲で行うか、どのように運用するのかなど、市との協議にも時間を要する。市との調整で間に合うようなら予算を計上したい。
「行政職員との懇談会」は、協働推進センターが今年度実施する協働講座に絡め、市が行政職員向けに協働を学ぶ機会を考えているとのことなので、これも調整が間に合えば予算に計上する。
今年度実施の事業は来年度も継続する予定である。
来年度の新規実施予定では、「人材バンク」を作り、ホームページで人材情報を提供していきたい。
大学生に市民活動に興味関心を持ってもらうための機会として、大学への呼びかけと大学生による事業企画・実施を新規として取り上げた。
このほか調査活動として市民活動団体状況調査、企業の社会貢献活動の調査を計上した。

事務局：先ほどの情報ボックスと行政との懇談会の説明を補足する。社会福祉協議会が協働推進センターを受託する際のプレゼンテーションで、この２つを企画提案したが、今回示した事業計画の中には盛り込まれていない。
協働推進センターは市民活動に関する情報を収集・集約し、市民やいろいろな関係者に提供する役割を担っている。その情報を集めるツールとして情報ボックスを活用したいと思っているが、市と未調整なので盛り込まなかった。

委員長：次年度の事業計画と予算について質問はないか。ホームページは交渉中ということであるが、満額通らなかった場合はどうなるのか。

事務局：ホームページ分を引くと本年度の予算とおおむね変わらない。

委員長：もしホームページがなくなると、その分を削られた金額になるのか。

事務局：それでも今年度より若干多く見積もっている。

委員長：ホームページの予算がとれなかった場合、ホームページ対応をどうするのか。

事務局：協働推進センターのブログがスタートした。ブログでどれだけ情報提供・情報発信できるのかということになってくると思う。例えばホームページの作成に関してはＣＡＮＰＡＮの中に、ブログだけのものとポータルサイトがあり、お金をかけずにやることを模索するのもひとつの方法だと考える。
人材バンクの情報発信に関してもできるだけお金をかけない形でつくっていくことになる。具体的にどこのサービスをどのように使うかは決めていない。

委　員：それならば初めから無くてもよいのでは。予算を出すからには必ず獲得するようにしなければ。

委　員：人が足りない中で時間的にもぎりぎりでやっているのに、この仕事もやるというのは過重労働になるのではないか。それでもやれるなら実際予算に計上しなくともよいのではないか。また人材バンクをやっていく上でのセキュリティーはどうなのか。

委　員：人材バンクは企画書が無くてもできるのか。普通の会社なら企画書を作ってぶつけるが、これでは取れたらやろうという風に思える。

事務局：ホームページができなければ、ブログを開設することができたのでそれを活用していくというのが１つの方法である。人材バンクのデータベースについても、データは協働推進センターで持って、可能な範囲でメールニュースを使い代用していくことも考えられる。ブログを立ち上げているので活用していきたい。また、ホームページの予算が取れたらそちらに切り替えていくという２段構えで考えている。

委　員：行政側の意向としては、ホームページについては、地域活動情報ステーションがあるからそれを活用して欲しいということか。

事務局：基本的にはその考え方である。ただ、協働推進センターのホームページを作ることによって認知度も上がり、情報の発信もしやすくなるのでお願いをしているが、他の市の委託事業のうち、単独でホームページを開設しているところがないのも理由の一つとなっている。

委員長：市の立場もあると思うが、ホームページを単独で持つ意味は大きい。今回予算を立てて出すということは、欲しいという意思表示になるのは事実。予算として出すというのは大事である。通らなかった場合の対策を考えておかなければいけない。

委　員：他の委託先にホームページの予算を出していないという発想自体が間違っている。事業に必要かどうかで判断しなければいけない。協働推進センターやＮＰＯを支援していくセンターは情報が命のはず。

委　員：人材バンクのホームページのイメージとしては例えば、「○○さんはこういうことができる」ということが載るということか。

事務局：イメージとしては、名前、顔、経歴、どんなことができるかなどが分かるページがあり、クリックすると詳細が見られ、協働推進センターに連絡がとれるということになると思う。その人の連絡先・メールをどういう風に扱うかは難しい。

委　員：どういうものを作りたいというイメージをはっきり私たちに説明してくれないと、「やりましょう」と言えないし予算も取れない。

委員長：予算をあげるのはいつか。

事務局：１１月半ばになる。

委員長：ヒアリングも含めてか。

事務局：ヒアリングを経てからだ。

委員長：今考えている内容で形を作り交渉を重ねていくのが大事ではないか。１年目に予算が通らない場合でも、２年目以降を検討してもらうためにもホームページの起案書を作り、ヒアリングに向かってほしい。ホームページ以外の項目について質問はあるか。

委　員：市民活動に関する相談事業の中で、専門相談員による相談会が未実施になっているが、実施予定はあるか。

事務局：専門相談員による相談は、１１月６日にＮＰＯ会計講座があるので、その際にニーズ把握を行い、中級編の開催希望が多ければ、来年の年明けに開催を検討する。

委　員：相談会とあるが、個別の相談も受けるのか。商工会でやっている支援センターでも市民も含めて事業者にも支援をしているので、そこと重ならないようにしたほうがよいのではないか。
予算的にもこれだけの事業はボリュームがある。ホームページについても、メンテナンスができる人がいないと作ったきりになるのでかなりの労力が要ると思う。

委　員：相談事業と研修事業をきちんと分けたほうがよいと思う。１１月６日のＮＰＯ会計講座が相談に入っている。

事務局：専門相談会は研修事業としてとらえている。

委　員：相談会というのは個別にやるという感じがする。

委員長：相談会という名称は誤解を招きやすいので、相談研修とかタイトルを変えたほうがよいのではないか。

委　員：今年度分で協働講座とアドボカシー講座などがあるが、どのように展開していくのか。西東京市の大きな課題は東大農場ではないか。東大農場の価値を多面的に評価していくことが大事。それにひまわり事業も入れていくなど、具体例を入れてアドボカシーを展開したらどうか。

委　員：一般論もいいが、一番役に立つのは具体的な例である。西東京らしいアドボカシーを行っていただきたい。

委員長：この講座の内容は委員の方からの意見も出たので検討してほしい。

事務局：皆さんからの意見を参考にさせていただく。

４．そ の 他

１．次回運営委員会日程について

委員長：次回は１１月１７日（火）の１９時からイングビル第２会議室で開催する。

事務局：市と調整した結果を事前に報告する。

以上をもって散会した。